

昭和六十三年三月

史料館所蔵史料目録 第四十七集

相模国大住郡土屋村原家文書目録（その一）

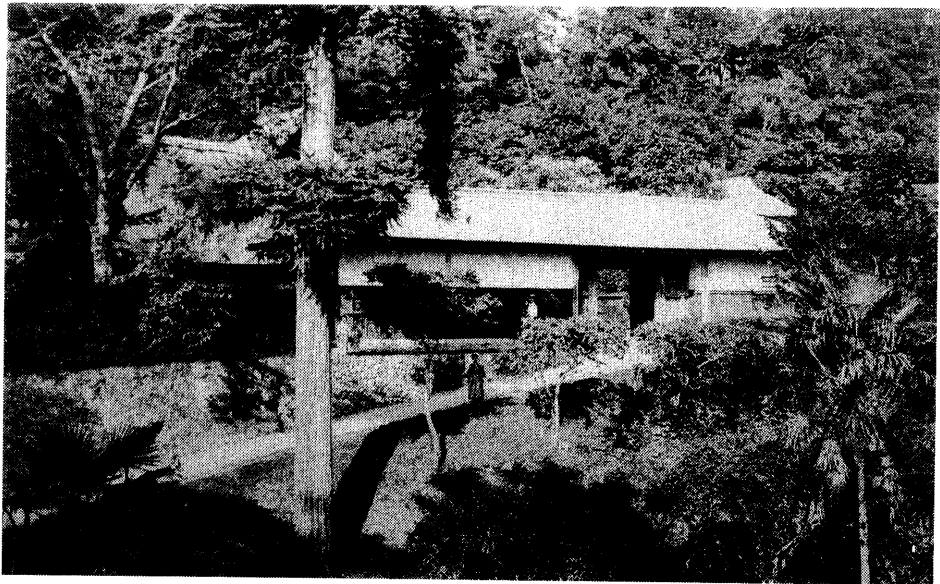
史
料
館

史料館所蔵史料目録 第四十七集

相模国大住郡土屋村原家文書目録（その一）



原 家 邸 宅 (昭和22年焼失)



原家屋敷門（現存）写真 原元助氏所蔵・
平塚市博物館内藤佳康氏複製

凡 例

- 一 本目録は『史料館所蔵史料目録』第四十七集として、相模国大住郡土屋村原家文書（その一）を収めた。
- 一 史料は利用上の便宜を考慮して、その内容・性格に応じ、大、中、小の項目を立てて編成配列した。大項目は一二ポイント活字、中項目は
一〇ポイント活字、小項目は九ポイントゴチック活字で示した。また、必要に応じて〇印で小項目内を区分した。なお内容が多岐にわたり、他の項目中にも掲げることが妥当と考えた史料は、*印を付して重出した。
- 一 小項目（ないし細項目）の中の史料の配列は、原則として年次順である。
- 一 史料目録の記載欄はほぼ、(一)表題、(二)作成者または差出人、(三)宛名、(四)作成年次、(五)形態、(六)数量、(七)史料番号の順である。
- 一 表題（史料名称）は、冊子型史料については原則として表紙記載の原表題を採り、原表題の無いものは仮に命名して（ ）を付した、書付型史料については原表題の無いものが多いので、原則として仮表題を掲げ、これに（ ）を付した。また内容摘記は（ ）内に八ポイント活字をもって併記した。
- 一 作成年次は年月日もしくは干支を採り、推定年次の場合は（ ）を付した。
- 一 史料の形態は、冊子史料では半（半紙判）、横半（半紙判横綴）、美（美濃半）、横美（美濃判横綴）、美大（美濃大判）、半半（半紙半載判）、横長半（半紙横長判）、横長美（美濃横長判）、横長美大（美濃大横長判）、横半半（半紙半載横長判）、横美半（美濃半載横長判）などによって原書の大概を示すにとどめた。また書付型史料は通、枚をもって数量を示し、紙形の大小、寸法などは省略した。絵図類は縦横の寸法をセンチメートル単位で示した。
- 一 数量の上部に示した場合は合冊本、刊は活字本、版は木版本、孔付謄写印刷物であることを示す。
- 一 巻末に簡単な解題を添えた。
- 一 本目録の作成、解題等は藤村潤一郎が担当した。

目次

口 絵

凡 例

相模国大住郡土屋村原家文書目録（その一）

.....

目 次

.....

目 録

.....

解 題

.....

頁

一

三

五

二六